

教育研究業績書

		令和8年4月30日	
		氏名 福泉 博子	
認定を受けようとする課程における担当授業科目			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	特別支援教育に関する科目
・保育内容表現の指導法(クラス分け)	・子ども文化演習B(オムニバス)		
教育上の能力に関する事項			
事項	年月	概要	
1 教育方法の実践例	平成19年4月 ～令和3年3月	科目「音楽」のピアノ指導にて、学生の演奏力向上につながる指導を行っている。	
	平成22年4月 ～令和3年3月	科目「音楽表現の探究」の歌唱法指導にて、学内行事等で演奏する子どもの歌(合唱)を指導している。また、ドレミパイプやミュージックベルを取り入れ、園での合奏活動、合唱活動、リズム遊び、音遊びの方法と指導案作成の指導を行っている。 幼稚園等で行われる音楽会の組み立て方や楽器の演奏法、歌唱法を教授している。学内行事に向けて、「クリスマスの1日」をテーマにミニ音楽劇を作成した。	
	平成23年4月 ～令和5年3月	科目「ピアノA」「ピアノB」のピアノ指導にて、演奏法に特化した授業を行っている。	
	平成27年4月 ～令和3年3月	科目「音楽」にてクラスを初級・中上級に分け、学生の習熟度に合わせた授業を実施している。音楽基礎知識や楽典をはじめ、実習園や地域の保育所・幼稚園で活用されている生活の歌を中心に授業を展開し、読譜力・弾き歌いの向上につながる授業を行っている。	
	平成27年9月 平成30年9月 ～令和4年3月	科目「スキルアップセミナーI/II」にてコードを使った伴奏法を用いて、習熟度に合わせた童謡や子どもの歌の伴奏部分作曲、編曲に対する指導をした。また、「クマと森のピアノ」「プレーメンの音楽隊」を題材に音楽を録り入れた音楽絵本の制作を行った。また、「森のくまさん」の歌詞をもとに物語を作成し、劇を制作し発表をした。さらには、木の枝やどんぐりなど自然にあるものを活用した楽器作りを指導し、木琴などを制作した。	
平成28年9月 ～令和8年3月	科目「子ども文化演習B」において、音楽表現、身体表現、造形表現の教員が学生と共に作品を創作し、制作過程の難しさ、協働、コミュニケーションの方法を指導してい		

		<p>る。学内行事に向けて、創作劇の舞台披露、動画制作、各分野パフォーマンス等多岐に渡り製作する授業を展開している。クリスマス会での演劇作品の音楽全般の指導 Yamamura Juhla Juhla では、音楽影絵劇、音楽絵本舞台作品の音楽全般を指導。</p> <p>令和8年度はクリスマスマーケットをイメージして造形・身体・音楽を融合した子ども参加型のイベントを実施。</p>	
	令和4年4月～	科目「音楽Ⅰ」にてクラスを初級・経験者に分け、学生の習熟度に合わせた授業を実施している。音楽基礎知識の授業を中心に生活の歌のピアノ弾き歌い、ドレミパイプ・ミュージックベルなどの単体楽器を使った合奏の授業を行いながら読譜力の向上を図る。	
	令和4年9月～	科目「音楽Ⅱ」にて、ピアノ演奏法、声楽の授業を実施。ピアノでは、習熟度別に楽譜を変え、12ヶ月の弾き歌いを習得させ、声楽では基本的な発声を指導する。	
	令和4年9月～	科目「保育内容表現」にて、音楽表現分野を担当。サウンドエデュケーション、サウンドマップの作成。手作り楽器制作、楽器演奏等を主軸におと遊びの方法を学生に指導する。	手作りのパネルシアターでの見立てあそびや音楽、身体、造形表現を融合させた劇遊びなどを展開した。
	令和5年4月～	科目「ピアノⅠ」「ピアノⅡ」のピアノ指導にて、演奏法に特化した授業を行っている。また、弾き歌いの歌唱指導園での歌唱活動を想定した指導を実施。	
	令和5年4月～	科目「保育内容表現の指導法」の音楽表現分野を担当。子どもの合唱、子どもの合奏、リズム・リトミックの方法と子どもへの指導方法について学び、指導案の作成とロールプレイを実施。	
	令和5年4月～	「子どもの音楽ゼミナール」を開講。リズム遊びやリトミックの即時反応について学び、実践する。子ども達の音への反応や感情表現などを読み取り分析する。	子どものうたの作曲を行い、子どもの声の発達や言葉選び、旋律の歌いやすさなどを考慮した曲作りを指導。また、合唱や合奏にも取り組み、発声法や演奏技術の習得や舞発表会の立案と舞台発表を実施した。
	令和5年9、10月	山村国際高校ライフデザインコースの保育履修の生徒に対して、「保育入門」の授業を行った。内容は、年齢別のあそび、リズム遊び 手作り楽器作り、合奏などである	

(様式第3号で付した教員の通し番号)【教員の姓】—

様式第4号(教員個人に関する書類)

	令和6年9月～12月	影絵劇「泣いた赤鬼」の制作と近隣の保育所にて発表 台本、演技指導。スクリーン、影絵の制作。
2 作成した教科書・教材	平成28年4月 平成29年4月～現在に至る 令和7年3月	ピアノ演奏や歌唱に必要な音楽基礎知識や実習や地域の保育所・幼稚園で使われている生活の歌をまとめた「やまたん音楽テキスト」を作成し、活用している。 学生の自主学習の目安となるように、バイエル等の教則本や生活の歌、季節の歌等子どもの歌の難易度順に構成した「ピアノ進度表」を作成し、活用している。 幼稚園教諭・保育士を目指す人のための【楽典教則本～入門編～】を制作
3 教育上の能力に関する大学等の評価	令和7年4月～8月	音楽Iの学生による授業評価アンケートでは、全体評価は5点満点中平均が4.64となっており、授業の進め方の項目でも、4.45～4.79と高い結果だった。音楽の知識が深まった。授業進度も的確で個々への対応も丁寧だったとの自由記述があった。 また、ピアノI(2年生)での全体評価は4.73、授業の進め方の平均評価は4.63～4.77と、この授業での評価も高い。各自の習熟度に合わせた指導により、演奏技術が確実に身についた。また、ピアノだけではなく歌唱指導や保育所や幼稚園での活動を想定したロールプレイが高い評価に繋がった。
4 実務の経験を有する者についての特記事項	平成27年12月 平成28年2月 平成28年6月 平成31年1月 平成29年12月 平成30年12月 令和3年11月 令和4年3月 令和4年12月 令和5年2月	埼玉県立富士見高校において、「幼児のための音楽」講師として出前授業を行った。 埼玉県立寄居城北高校の職業別体験学習において「幼児のための音楽」の講師として出前授業を行った。 埼玉県立鳩山高校の大学授業体験講座において「幼児のための音楽(歌って叩いて音あそび)(ドレミパイプで音あそび)」の講師として出前授業を行った。 都率竹早高校合唱コンクールにて審査員を行う。 埼玉県立滑川総合高校の授業体験講座にて「幼児のための音楽(ICTを使ったリズム遊び)」「楽器で遊ぼう(ミュージックベル・ドレミパイプ)」の講師として出前授業を行った。 山村国際高校において模擬授業を行った。「幼児のための音楽(ICTを使ったリズム遊び)」「楽器で遊ぼうドレミパイプ」の講師として出前授業を行った。 埼玉県立滑川総合高校の授業体験講座にて「リズム遊び・リトミック遊び」の出前授業を行った 吉見町立よしみけやき保育所にて保育士50名に対し「子どもの音楽表現活動・年齢別の音楽活動」についての研修を行った。

(様式第3号で付した教員の通し番号)【教員の姓】—

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	令和5年10月	埼玉県立滑川総合高校の授業体験講座にてリズム、リトミック遊びを実施。まねっこ遊び、リトミックスカーフ、ウレタンパイプ等を使い見立て遊びを入れながら想像力を養うプログラムを展開した。
	令和6年2月	吉見町立よしみけやき保育所にて保育士50名に対し研修会を実施。年長25名、27名をモデルにリズム・リトミック遊びを行った。
	令和6年6月	鳩山町子育て教養講座 身近な素材で手作り楽器を作成 ペットボトルを使ったマラカスやマレットを作成。最後は作った楽器で参加者と合奏を実施。
	令和7年10月	滑川総合高校の模擬授業 保育の仕事紹介や手遊び、リズム遊び、ちょっとだけ体操を行った。
5 その他		特記事項なし
職務上の実績に関する事項		
事項	年 月	概要
1 資格, 免許	平成6年3月 平成6年3月	中学校教諭一種 (音楽) 免許状 (平六中一普第13337号) 東京都教育委員会 高校教諭一種 (音楽) 免許状 (平六高一普第13358号) 東京都教育委員会
2 学校現場等での実務経験	平成10年4月 ～令和6年3月 平成10年4月 ～現在 平成13年9月 ～20年3月	音楽教室 (自宅) 声楽・ピアノの個人指導を行う 女声コーラス指導・指揮者 平成26年12月まで月までやまぶきコーラス 平成17年4月～平成27年3月 コーロ・ブリランテ 平成26年11月～現在 Coro・Felice 平成22年7月～令和元年12月 小江戸川越第九の会 令和6年5月～現在 小江戸川越第九の会 よみうり文化センター川越 声楽講師として個人指導を行う
3 実務の経験を有する者についての特記事項	平成22年7月 ～令和元年12月 平成27年11月 平成28年11月 平成30年10月	小江戸川越第九の会主催演奏会「土の歌」の合唱指導者として指導した。 山村学園短期大学公開講座の講師を務め、「家族で歌おう子どものうた」「合唱を楽しもう～心のハーモニーを奏でよう～」「合唱講座～心を繋ぐハーモニー～」をテーマに指導を行った。唱歌や童謡、子どもの歌への歴史的変

(様式第3号で付した教員の通し番号)【教員の姓】—

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	<p>平成22年7月 ～令和元年12月</p> <p>平成27年12月 平成28年12月</p> <p>平成28年7月</p> <p>平成30年9月</p> <p>令和4年8月～ 令和5年3月</p> <p>令和6年5月～</p>	<p>遷を教授した。また唱歌、合唱曲等から発声、呼吸、筋肉の使い方など指導をした。</p> <p>小江戸川越第九の会主催演奏会ベートーヴェン「交響曲第九番」の合唱指導者として指導した。</p> <p>都立武早高校合唱コンクールに審査員として合唱審査を行う。</p> <p>鳩山町教育委員会主催子ども大学はとやまにて、「音の始まり、音楽の始まり」を開講し講師を務めた。小学4～6年生を対象に音や音楽の生まれについて身体で体感しながら学ぶ授業を行った。</p> <p>NPO法人高齢社会をよくする女性の会「第37回全国大会in川越」第5分科会「住民主体のまちづくり～越渡川越歴史を紡ぎ奏でるまち～」のパネリストとして参加し、川越市での童謡唱歌の普及推進の活動や研究についての発表を行った。</p> <p>武蔵丘短期大学・山村学園短期大学協同研究 よしみけやき保育所体操制作 子ども達の体力測定を行い苦手な動きなどを分析。 苦手な動きを改善する運動を取り入れた体操に対して作曲を行った。</p> <p>小江戸川越第九の会主催演奏会ベートーヴェン「交響曲第九番」の合唱指導者として指導。</p>
<p>4 その他</p>	<p>平成8年8月</p> <p>平成8年11月 平成12年6月</p> <p>平成13年6月</p> <p>平成13年8月</p> <p>平成13年～15年 9月</p> <p>平成12年～平成27年8月</p>	<p>【主な演奏歴】</p> <p>国際オペラセミナー入賞者演奏会 (イタリアにて開催) 歌劇「ラ・ボエーム」より告別の歌 他</p> <p>ベートーヴェン第九 ソプラノソリスト (川越市) リサイタル (彩の国さいたま芸術劇場)</p> <p>R.シュトラウス「夜」 歌劇「オテロ」より 柳の歌 東京国際芸術協会新人コンサート (日暮里サニーホール) 歌劇「アンドレア・シェニエ」より 亡くなった母を ソレイユ声楽コンクール入賞者演奏会 (東京文化会館) 歌劇「ジョコンダ」 この恐ろしい時に</p> <p>ふれあいミュージックフェスティバル (国立音大ホール) 落葉松 さくら横丁</p> <p>歌劇「ジャンニスキッキ」より 愛しいお父様 歌劇「カプレーティ家とモンテッキ家」より二重唱</p> <p>1月・3月・8月・12月にディナーコンサート (キャメロットヒルズ主催) アヴェ・マリア (シューベルト、グノー、マスカーニ) Panis Angelicus オペラ・アリア ミュージカル曲など</p>

(様式第3号で付した教員の通し番号)【教員の姓】—

様式第4号 (教員個人に関する書類)

平成15年10月	TMMクラシックコンサート 歌劇「カプレーティ家とモンテッキ家」より 二重唱
平成17年～平成26年 10月	女声合唱団「コーロ・ブリランテ」合唱指導・指揮者としてコンサートを開催。(ふじみ野市内公民館ホール) 女声合唱組曲 木下牧子「月の角笛」「愛する歌」「花のかず」 中田喜直「ほしとたんぽぽ」 新実徳英「白い歌青い歌」 服部公一「春のマドリガル」 信長貴富「赤い鳥小鳥」「ヴィヴァルディが見た日本の四季」 他
平成18年10月～現在	「童謡唱歌フェスティバルin川越」(第7～14回)へ出演し、童謡・唱歌の普及推進を目的とした演奏会を開催する。企画・総合演出、指導、演奏を行う。
平成22年7月～令和1年12月	小江戸川越第九の会主催ベートーヴェン「第九」合唱指導を務める。(ウエスタ川越大ホール 他)
平成24年3月	川越市・川越市合唱連盟主催、歌劇「カルメン」メルセデス役で出演。
平成25年9月	自主公演、オータムコンサートに出演 R.シュトラウス「万霊節」 中田喜直「ゆく春」 歌劇『蝶々夫人』より 二重唱 あの桜の小枝を揺さぶって 歌劇『海賊』より 無邪気なほほえみと 他
平成26年1月 平成27年1月	「ニューイヤーガラコンサートin川越」に出演。 「すてきな春に」歌劇アドリアーナ・ウクヴルールより「私はおとなしい下僕です」 歌劇ジェンニ・スキッキより「私の愛しいお父様」歌劇アイダより「勝ちて帰れ」
平成28年3月	川越市施設管理公社設立25周年記念演奏会に出演。
令和5年8月	合唱団Coro Feliceの演奏会に指揮者として出演。 於：川越市やまぶき会館
令和6年5月～	小江戸川越第九の会主催ベートーヴェン「第九」合唱指導 (ウエスタ川越大ホール 他)

担当授業科目に関する研究業績等

担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概要 (共著の場合は全員の著者名を記載) (共著及び執筆ページ数が抽出できない場合は執筆箇所を詳述)
--------	-------------	----------	------	---------------	-------------------	--

様式第4号 (教員個人に関する書類)

保育内容表現の指導法	(教育実践記録等) 1. 保育者養成の実習で求められるピアノのスキルに関する一考察	共	平成29年3月	山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第27号』	10 (94)	山村学園短期大学保育学科の幼稚園・保育所等での実習において、実習生がどのような曲を演奏し、 <u>どのような技術レベルで演奏しているのかを調査し、実習準備指導(ピアノ)の課題を明確化した。</u> (執筆担当部分：課題について) 著者：橋本淳一、福泉博子
	2. 童謡唱歌演奏会における参加年代調査と演奏曲目調査からの一考察	単	平成29年3月	山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第27号』	13 (94)	童謡唱歌の普及推進活動をしている中で、参加年代や好まれている曲目を調査し、童謡唱歌が歌われている背景、子どもにどのような影響を与えるかを考察した。
	3. 本学におけるピアノの取り組みについて	単	平成31年3月	山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第29号』	13 (85)	短期大学生のピアノ未経験者、初級者に対して <u>ピアノ指導と取り組みについて、また取り組み前後で学生の習熟度がどのように変化したかを分析、考察した。</u>
	4. 保育における「音楽・音楽表現」に関する一考察～サウンド・エデュケーション(おとさがし)を通して～	単	令和3年3月	山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第31号』	18 (48)	短期大学生を対象に、授業における大学敷地内でのリスニングウォークを通して、見つけた音を色、形、オノマトペ等で様々な表現をさせ、実態を調査した。学生がどのような感じ方をするのか、またどのような感性を持っているのかを分析、考察した。
	5. 学内子ども参加型イベント 「Yamamura Juhla Juhla」に対する子どもたちの受け止め方について(1)—ストーリーに対する保育者の視点から—	共	令和4年3月	山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第32号』		本学で行われた子ども参加型イベント「Yamamura Juhla Juhla」のストーリー(内容)について保育者から見た子どもたち受け止め方を分析、考察した。 著者:福泉 博子 酒井 誠 楠原 竜也 室井 佑美
	6. 学内子ども参加型イベ	共	令和4年3月	山村学園短期大学『山		本学で行われた子ども参加型イベント「Yamamura Juhla Juhla」のイベントマネジメントについて保育者か

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	ント 「Yamamura Juhla Juhla」 に対する子どもたちの受け止め方について(2) — イベントのマネジメントに対する保育者の視点から—			村学園短期大学紀要第32号』		ら見た子どもたち受け止め方を分析、考察した。 著者:酒井 誠 室井 佑美 楠原 竜也 福泉 博子
子ども文化演習B (オムニバス)	(教育実践記録等) 1. 保育者養成の実習で求められるピアノのスキルに関する一考察	共	平成29年3月	山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第27号』	10 (94)	(再掲のため、略)
	2. 童謡唱歌演奏会における参加年代調査と演奏曲目調査からの一考察	単	平成29年3月	山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第27号』	13 (94)	(再掲のため、略)
	3. 本学におけるピアノの取り組みについて	単	平成31年3月	山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第29号』	13 (85)	(再掲のため、略)
	4. 保育における「音楽・音楽表現」に関する一考察～サウンド・エデュケーション(おとさがし)を通して～	単	令和3年3月	山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第31号』	18 (48)	(再掲のため、略)
	5. 学内子ども参加型イベント 「Yamamura	共	令和4年3月	山村学園短期大学『山村学園		(再掲のため、略)

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	<p>Juhla Juhla」 に対する子どもたちの受け止め方について(1)—ストーリーに対する保育者の視点から—</p> <p>6. 学内子ども参加型イベント 「Yamamura Juhla Juhla」 に対する子どもたちの受け止め方について(2)—イベントのマネジメントに対する保育者の視点から—</p>	共	令和4年3月	短期大学紀要第32号』 山村学園短期大学『山村学園短期大学紀要第32号』		(再掲のため、略)
--	---	---	--------	---	--	-----------